

全国ブランド「仁多米」更なるステップアップを目指して！ 第三回仁多米振興大会開催

奥出雲町が全国に誇るブランド米・仁多米の更なるステップアップを目指す仁多米振興大会が二月二十六日、カルチャープラザ仁多において開催されました。

町とJA雲南とが二年に一回開催しているこの大会では、これまで堆肥施用の推進、減農薬、減化学肥料など環境に配慮した安全な米づくりを全面的に進め、付加価値を付けた仁多米の販路拡大や更なるブランド化、生産技術の向上などを図っています。



▶ 仁多米のステップアップについてみんなで考えました

指導する木次農林振興センターの清水農業普及員からは、町内の実証ほ場で行った分析結果をもとに化学肥料を使わなくてもおいしい米づくりはできること、今後は堆肥施用率百割を目指し環境にやさしい土づくりを実践することなどが提言されました。

事例紹介では法人こまきの代表原田二朗さんから、中山間地等直接支払制度を活用した集落内での活動、農業生産法人を立ち上げ都市住民とのソバオーナー制を活用した交流事業などの取り組み紹介もありました。

特に法人を立ち上げるに至った経過など様々な意見集約の結果、法人誕生をみた苦労話に熱がこもっていました。

また講演では、過去平成十二年、十三年、及び十七年に全国米・食味分析鑑定コンクールで最優秀賞「金賞」を受賞したご縁で米・食味鑑定士協会の鈴木秀之会長をお招きし、「厳しい米市場の生き残り戦略」と題して記念講演が

ありました。「人がやらないことをしなければ産地として生き残ることは出来ない。各産地の独自な取り組みと安心安全な米づくりが是非必要。農薬、化学肥料等を削減した環境による差別化等、更に個性を伸ばしてほしい」と熱意を込めて話されました。

奥出雲仁多米は、現在では有名百貨店、高級スーパーなどのカタログギフトに掲載されるなど既に新潟魚沼産米を超えるブランド米として全国展開しています。

この振興大会でも更なる仁多米のブランド化に向けて、町をあげて取り組むことが誓い合われました。



▲熱意ある講演をして頂いた鈴木会長

「食」について学ぼう 一味同心塾で子供料理教室



▲真剣に中村先生の説明を聞く小学生

料理研究家の中村成子先生が館長を務める一味同心塾で料理を通して食の学習をしようとして二月二十四日、亀高小学校の五、六年生が訪れました。

亀高小学校は五、六年生が総合的な学習の時間を利用して近くの水田で仁多米づくりに励み、農業の大切さ、仁多米のおいしさ等について学んでいます。

料理教室では先ず中村先生から、体によく栄養のある玄米の紹介やその玄米をおいしく食べる方法の説明、また収穫後の田んぼで一粒の籾から

新芽が出ているのを見て、その生命力に感動したことを通じて「食と命」のかかわりについての話がありました。

調理が始まると、児童は中村先生から親切に指導を受け、野菜を切る係、豆をする係など分担して取り組みました。

今回は、花豆玄米ごはん、呉汁、さつまいものコロツケ、きなこのプラマンジェなどを作り、お昼にはみんなでおいしく食べました。

児童たちは、この料理教室を通じて「食」のもつ様々な意味を学びました。

町をあげて取り組もう

第八回地球環境を考える町民のつどい

二月十二日、横田手をつなぐ女性の会主催による第八回地球環境を考える町民のつどいが横田コミュニティセンターにおいて開催されました。

横田手をつなぐ女性の会では、町をあげて自分たちが住む奥出雲の美しい自然環境を後世へ残していこうと毎年このつどいを開催しています。

挨拶、絲原県議をはじめ来賓の祝辞、また今年は長年の環境問題の取り組みに対し小池環境大臣からの感謝のメッセージも披露されました。

つづいて行われた活動発表では、馬木小学校の児童が身近な動植物や馬木の歴史について調べた研究発表、NPO法人コスモ銀河計画からは生ゴミを肥料に変える循環型社会への取り組みの報告がありました。

また基調講演も行われ、島根ふれあい環境財団21の梅仲夫環境推進課長から温室効果や二酸化炭素の増加などが地球環境に及ぼす影響について説明を受けました。

参加された多くの方は、環境問題への取り組みの大切さを再認識されました。



▲事例発表を行う馬木小学校の児童

パッくんマッくんがやって来た

島根リハビリテーション学院で NHK公開セミナー開催

島根リハビリテーション学院を会場に二月十五日、NHK公開セミナーが開催されました。

今回のセミナーには「笑いで元気に！」と題して、NHKの人気番組「英語でしゃべらナイト」などに出演中のパッくんマッくんことパトリックハーランさんと吉田眞さんを講師に迎えました。

人気者のパッくんマッくんが来町されるとあって、当日は三百人を超える参加者がありました。

二人は、様々な取り組みやコミュニケーションの場で「笑い」を取り入れ、その場の雰囲気や和らげるの大切さを楽しいトークで説明されました。

また、信号機の押しボタンの近くに灰皿がある、障害者用駐車場に車椅子を降ろすス



▲「笑い」の効果について説明するパッくんマッくん

ペースがない、駅のエレベーターが夜八時になると止まる

など自身が出演されている番組の中で感じた福祉対策の問題点と更なる向上、ボランティアの必要性についてもお話がありました。

この日は、福祉関係の出席者も多く、特に国家試験を控えたリハビリ学院の四年生にとっては今後にとっても役立つセミナーとなりました。